

教科目名 環境計画 (Environmental Planning)

学科名・学年 : 土木工学科 5年 (教育プログラム 第2学年 科目)

単位数など : 選択 1単位 (後期1コマ, 学習保証時間 22.5時間)

担当教員 : 亀野辰三

| 授業の概要 | | | |
|--|--|--|-----------|
| <p>「環境計画」が扱うフィールドは、もちろん環境問題であるが、わが国の高度成長期に「環境問題」は、大気汚染、水質汚濁、土壌汚染、騒音、振動、地盤沈下、悪臭といったいわゆる産業公害を指していた。しかし、今日の環境問題は、地球温暖化、オゾン層の破壊、酸性雨、砂漠化等という分類で捉えられている。したがって、「環境計画」では、人間活動を規定している政策、法律、社会経済、技術、ライフスタイルなどの幅広い視点から計画を検討し、それが環境に及ぼす影響を考えることが重要である。以上の観点を踏まえ、前半にはわが国の環境問題の現状、住民や企業の環境保全活動について講義を行い、その後、学生諸君がまとめたレポートをもとにプレゼンテーションを実施して、環境問題解決へ各自ができることを考える場を創出したい。後半は、近年話題となっているグリーン経済や環境基本計画を学習し、環境問題を解決するさまざまな動きや法的な社会規制のありかたを学ぶ。</p> | | | |
| 達成目標と評価方法 | | 大分高専目標(B2), JABEE目標(d1)(g) | |
| <p>(1) 環境問題の過去と現在を、その背景、政策、制度等を正確に現状認識ができる。(定期試験) (2) 前半で学習する内容について、事例を調べてレポートにまとめることができる。(レポート) (3) 前半で学習する内容について、事例を調べて発表と討論ができる。(プレゼンテーション)</p> | | | |
| 回 | 授 業 項 目 | 内 容 | 理解度の自己点検 |
| 1 2 3 4 5, 6 7 | 1. 公害から環境問題へ (1) 公害の発生と地球環境の問題 (2) わが国の環境行政 (3) 地球環境問題 (4) 京都議定書 2. 地域の環境再生 3. プレゼンテーション | 戦前から戦後にかけての公害問題・環境問題の歴史について理解する。 典型7公害とその現状、及び地球環境問題について理解する 京都議定書の内容について理解する。 日本各地で行なわれている環境再生の動きを理解する。 「環境再生」についてまとめた内容をもとにプレゼンテーションを行う。 | 【理解の度合い】 |
| 8 | 後期中間試験 | | |
| 9 9 10 11 12 13 14 | 後期中間試験の解答と解説 4. 環境保全活動 (1) 企業の社会的責任 (2) 環境マネジメント (3) 環境美化活動 5. 社会経済のグリーン化 (1) 地域通貨 (2) 交通需要マネジメント これまでのまとめ | 分からなかったところを理解し、地域社会における環境保全活動について事例とともに学ぶ。 環境マネジメントの基礎を学ぶ。 アダプト・プログラムの特徴を学ぶ。 地域通貨やエコマネーの意義と特徴について理解する。 TDMの意義と手法について事例とともに学ぶ。 環境計画全般について議論する。 | 【理解の度合い】 |
| 15 | 後期期末試験 | | 【試験の点数】 点 |
| | 後期期末試験の解答と解説 | | |
| 履修上の注意 | 参考図書からレポートを課すので、各自で事前に購入しておくこと。 | | 【総合達成度】 |
| 教科書 | 石井・湯沢編著、『環境計画総論』、鹿島出版会 | | |
| 参考図書 | 『環境再生と日本経済 市民・企業・自治体の挑戦』、岩波新書 | | |
| 関連科目 | 交通工学、景観デザイン(専攻科)、社会システム、地域計画学(専攻科)、公園緑地計画 | | |
| 総合評価 | 達成目標の(1)~(3)について定期試験とレポート及びプレゼンで評価する。 総合評価 = 0.7 × (2回の定期試験の平均) + 0.3 × (レポート&プレゼン) 総合評価が60点以上を合格とする。 | | |
| | | | 【総合評価】 点 |